

主題 [平和を実現する人々は幸いである] マタイによる福音書5章9節
基本方針 イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
組織の課題 若い会員を増やし、意志決定機関に25%以上の若い会員を入れる
運動の課題 1.憲法改悪を阻止し、第9条を世界平和の礎にする
2.「核」廃絶と、自然エネルギー活用を推進する
3.子どもの権利を守る
4.女性への暴力の問題に取り組む

YWCA 12

DEC. 2006

発行所 日本キリスト教女子青年会
〒102-0074
東京都千代田区九段南4-8-8
Tel. 03-3264-0661
E-mail. office-japan@ywca.or.jp
編集発行人 青木恵子
振替 00170-7-23723 (毎月1日発行)
定価1部 150円
年間購読料2,200円 (送料込)
www.ywca.or.jp



小さくされた者の側に立つ神
「釜ヶ崎と福音」(本田哲郎著 岩波書店)より

F・アイヘンバーグ画

もうひとつのクリスマス

聖書に秘められたメッセージ

大阪・釜ヶ崎 カトリック司祭 本田哲郎

1965年上智大学卒業後、フランシスコ会に入会。
91年より釜ヶ崎にて日雇い労働者に学びつつ聖書を読み直し、「釜ヶ崎反失業連絡会」などの活動に取り組む。

これはどうも、マリアの妊娠が結婚相手ヨセフのあ
ずかり知らぬことであつたといふこと無関係はな
ささうです。ヨセフは「ひそかに縁を切つ」と決心し
た(マタイ1:19)くらいでした。マリアもヨセフも
ユダヤ教のタブー(禁忌)にふれた「けがれた罪びと」
として扱われたのです。聖書は、それを「聖霊によ
る身ごもり」と説明し、マリアもヨセフもこれを受
け入れたと記録していますが(マタイ1:20、ルカ
1:35、38)、たとえ、それが事実であつたとしても、
周囲の人たち、当時の世間が納得するはずがありま
せん。「しだらなマリア」、そのマリアを平気で受け入
れる「けじめのないヨセフ」と見られては烈でした。
ペトレムというところは、イスラエル建国の父ダ
ビデの出生の地として、とりわけ誇りと伝統を重んじ
る町でした。「聖なる律法を犯したごんな本人」、う
ちの敷居はまたがせないぞ」と屋根をよせる家の長
老たちのさまが、目に見えるようです。ペトレムは
小さな町です。案の定、宿屋でも二人は断られたので
す。彼らのためになつたのは、泊まる場所ではなく、
「尾場所」でした。

救い主イエス・キリストは家畜小屋でうぶ声を上げ
「飼ひ葉桶に寝かされた」といふ。「宿屋には彼らのた
めに場所がなかつたから」(ルカ2:7)らしい。
でも、それって、へんですね。ローマ皇帝アウグス
トの住民登録の勅令で、ヨセフはみごもつていた婚約
者のマリアをつれて、自分の実家の村ペトレムにきて
いたはずなんです。なぜ宿屋の戸をたたいたのですか。
それよりも、なぜ親戚の家に入れてもらえなかつたの
ですか。

私たちがなんとなく思うのは、どこの家でも一族の
人たちがいどきに帰省してきて部屋に余裕がなく、
あふれた人たちが利用した宿屋も満室だったといふ
ことでしょう。でも、それは聖書の文脈と民族の気質
を無視した、単なる想像にすぎません。ユダヤ民族の
身内愛は、セム系民族に共通して強いものです。一族
の新しいのちが生まれるといふときの状況に、まっ
たくそぐわなないことです。

シングルベルとサンタさんの商店街のクリスマス。
正装したクリスチャンたちが賛美歌とパーティをた
のしむ教会のクリスマス。どちらも、社会のすみっこ
に押しやられた貧しい仲間たちには、敷居が高かつた
り、手が届かなかつたり。飢えと渴きに苦しめ、着
の身着のまま住まいを失い、病気をしても見舞う人
はなく、よきなく法を犯して留置所や刑務所に入れら
れているイエス(マタイ25:35-45)がホツとできるク
リスマス、あつたらいいですね。

人類の救いは痛みを知る仲間たち、社会の底辺か
ら! これこそが聖書に示されているクリスマスの
メッセージではありませんか。差別される痛みを身を
もつて知っておられる主、貧しきといふものが救い
ごとですまないことを分かつておられる方が、救い主
として来てくださった…。こういう救い主イエス・キ
リストを思うとき、なぜか力がわいてきます。「主よ、
来てくださって、ありがとう!」と心から言えるので
す。

ルカ福音書はイエスの誕生と洗礼者ヨハネの誕生を
併記しますが、その状況の違いは歴然です。
ヨハネの場合は、こうです。「さて、エリザベトは
出産の時をむかえて、もうの子を生んだ。近所の人々や
親戚たちは、神が痛みを知るその心をエリザベトに対
して動かされたと聞いて、喜び合った。八日目になつ
て、子どもに割礼をほどこすために、みんなが集まつ
た。」(ルカ1:57-59)。

それに対して、イエスの場合は、親戚からも町の人
からもうとまれて排斥され、唯一、お祝ひにかけつ
てくれたのは、当時、身がいやしい罪びとと見なされ
ていた「羊飼いた」とであり(ルカ2:8-20)、荒廃
と不毛の象徴の「東」からやってきた「邪教の占い師
たち」(マタイ2:1-12)だけでした。貧しさと差別さ
れる痛みを知る者たちこそ救い主を見だし、喜びを
分かち合えるのだといふメッセージです。

こうした救い主誕生のメッセージへ導くのが、マタ
イ福音書の冒頭にかかげられるイエスの系図です。男
親の名だけを列挙する当時の世間一般の慣習をやぶつ
て、この系図にはマリアを含めて5人の女性が記録さ
れています。「ユダの子はタマルによるベレッとセ
ラ…サルモンの子はラハブによるボアズ、ボアズの子
はルツによるオベド…ダビデの子はウリヤの妻による
ソロモン…ヤコブの子はマリアの夫ヨセフであり、こ
の「マリアによる子」がキリストと呼ばれるイエスであ
る(マタイ1:3-16)。彼女たちはいずれも、正
統を重んじるユダヤ人たちのひんしゆくをかう経歴の
持ち主でした。タマルは娼婦に身をやつして律法に禁
じられた男の子を宿した女性、ラハブはエリコの街の
遊女、ルツはイスラエルの民に敵対した異民族モアブ
の女性、ウリヤの妻バトシェバはダビデの姦淫の相手
でした。そして、その延長線上の最後の5人目に登場
する女性がマリアなのです。

「協力ありがとつこいよ
賛助費(以下敬称略)
村椿椅子 高橋美佐子 設楽順子
岡崎敬雄 小野小夜子 寺嶋公子
山本利子 森恵美子
平和教育資金
崔善愛 吉村千恵 石原清美
一般寄付
角田健 仙台YWCA 永山峰子
南信分館人部
女子学院中学校高等学校
オリブの木募金
藤村園子 飯田眞知子 畑裕子
財団法人アジア女性交流・研究
フォーラム 小泉拓永 小泉孝子
細井光 レイチェルSmith B.R
ジャフ島中部地震緊急支援募金
大阪YWCA
東京YWCA留学生の母親運動
東京YWCA武蔵野センター
弘前YWCA 仙台YWCA
レバノン・パレスチナ緊急支援募金
名古屋YWCA 甲府YWCA
村上美津子
世界YWCA総会派遣募金
ルクセンブルク大使館展覧会参加者
浦和YWCA

「安全・安心で快適なまちづくり」というソフト
なキャッチフレーズのもと、善意の市民を絡めとり、
同じ市民の日常生活を把握する。相互監視を導入し
て、「見張る側」と「見張られる側」に私たち
を分断する。この構造は、自由な発想や行動を抑
えるだけでなく、ますます弱い立場のホームレス
や在日や外国籍の人々を「異端」とみなし、その
存在に牙をむけさせる危険性がある。私たちは、
社会の深層を見抜く鋭い視点と広い視野をもち、
声をあげ続けていこう。」(名古屋YWCA会員)

最近、街を歩くとお揃いのジャンパーを着たパ
トロール隊によく出会う。私の住む地域にもレ
ディース・ピース隊というボランティア団体が子
どもの安全確保のための活動をしている。
今、全国ほとんどの市町村が「生活安全条例」
を制定し、犯罪の防止をうたい、町内会や自治会
などの地域と警察や自治体との強力な連携で動い
ている。この条例は警察庁生活安全局が示した雛
形をもとに、全国的にはほぼ同じものが策定されて
いる。この条例のもと、パトロール隊は警察によ
る研修を受け、警察との合同活動を実施してい
るところが多い。警察庁のホームページによると
10月現在、全国で2万6000の団体があり、
1年前に比較すると2倍に膨れている。

犯罪をなくすための活動ならいいじゃないかと
大方の人は思っているが、そんな単純なものでは
なかつた。
「自警団」つくりであり、市民あげて防犯活動に
動員する「総動員体制」に隣りか。戦前におつ
た「隣組」と似た構造だ。「隣組」は「お上」か
らの命令を住民の末端まで教え込み、夕食のおか
ずまで知り合う関係だった。戦争を少しでも批判
したら、隣人が警察に通報する「相互監視体制」
で、警察と一体化した時代があった。

監視社会は誰のもの

永山峰子



大阪 YWCA

韓国・釜山YWCAと姉妹提携



東京 YWCA 野尻キャンプ場 新ゆかりハウス オープン

紅葉の美しい季節の10月末、大勢の人たちの念願がかない、新しいゆかりハウスが東京YWCA野尻キャンプ場に誕生しました。
紅葉の美しい季節の10月末、大勢の人たちの念願がかない、新しいゆかりハウスが東京YWCA野尻キャンプ場に誕生しました。
紅葉の美しい季節の10月末、大勢の人たちの念願がかない、新しいゆかりハウスが東京YWCA野尻キャンプ場に誕生しました。
紅葉の美しい季節の10月末、大勢の人たちの念願がかない、新しいゆかりハウスが東京YWCA野尻キャンプ場に誕生しました。

関西空港からわずか1時間半、
私たち大阪YWCAの一行12名
は釜山釜山国際空港に降り立っ
た。10月17日、釜山YWCA創
立60周年記念式典とその機会に
行われる大阪/釜山YWCA姉
妹提携式に出席するためである。
式場のロッテホテルの大広間
は800名を越す人々で埋め尽くさ
れた。韓国各地のYWCA会員
はもちろん、地元釜山の名士が
お祝いに集まった。賛美歌で始
められた厳粛な記念式祥の後、
いよいよ大阪・釜山両YWCA
会会長により、参加者全員が見守
るなか姉妹結縁の調印・交換
が行われた。大阪YWCAの辻
加代会長は「政治家に未解決の
課題も多い今だからこそ、私た
ちは顔の見える関係を協働を」



から14名の青年たちを迎え、コ
リア文化交流の体験・京都観光
など文化交流を見学し、
式典の翌日訪れた釜山YWCA
本館では、4年前に生活協同
組合としてリニューアルした店
が賑わっていた。私たはたく
さんのエネルギーをいただいた、
連帯感を再確認しつつ帰国した。
大阪YWCA 加山從子

幸世はいろんなかたちでそこにある

呉YWCAにんじゃクラブ(※1) 保護者 佐々木志穂美

今から10数年前。現在、重度心身障がい施設に入所している長男がまだ自宅にいた頃。まだ呉には友人も知人もなく、障がいと極度な体の弱さを併せ持つ長男を連れて外出する先は、病院以外になく、毎日じっと家で過ごした。
今のように、メールやファックスが一般的であったなら、孤独はずいぶん和らいでいただろう。コードレスフォンもなかった当時、電話すら私には難しく、夫と看護師さん以外の人としゃべることなどほとんどない日々だった。
そんな私が今では、毎日多くの人とつながっていることを実感しながら生活している。次男三男も障がいを持って生まれてきたからかもしれない。そんな彼らとの日々をエッセイにまとめ、今年の6月出版した。※2
本が店頭にならびはじめ、驚いたのは私のまわりの人が私以上に喜んでくれていることだった。何冊も買ってはあちこちに宣伝して歩いていたりするのだ。うれいとか、ありがたとかのレベルを超え、ただただ感動した。
本のことが新聞に載ると、縁という糸が複雑にからんでいることに気づかされた。偶然本を読んだ人が友人の知人だったり。ごく近くにいた人が、実はずっと昔の場所にいたことがわかったり。私の恩ある人が実は今、弟と縁がある人だったり。まるでドラマのようにつながっていく人間関係に私はときどきして、心のなかに増えていく縁という名の糸にみとれていた。

そんななか、友人からメールがきた。
「洋平君が昔よく入院していた総合病院の看護師さんと私、知り合いなんよ。その人偶然本を読んで、私とあんたが友人ってこと気づいたみたいで。本読んで安心したって。元気なこと知って安心したって」。
そのメールを読んで、目の奥がツーンと痛くなった。昔、私が日本語を忘れそうほど、しゃべる機会がなく、誰ともつながってなかったと思っていた時代にも、人と人との縁というもののはちゃんどこかでつながっていたんだ。私が覚えてない人たちまでが、まだ危うげだった新米障がい児母と、とてつもなく体の弱い赤ん坊の行く末を心配し、10年以上も思ってくれていたのだ。きつと私たちは、一人で生きているように感じる時も実はその影に多くの人が見守ってくれているんだと思う。私たちは生きているのではなく生かされている。(呉YWCAニュース06年9月号より転載)

※1 幼稚園児から小学6年生までを対象に、自然の中で体を動かし、仲間と一緒に活動するプログラム。
※2 『さん さん さん』佐々木志穂美著 新風舎 (第25回新風舎出版賞大賞受賞作)

アクション・アラート 2006年11月10日 パレスチナYWCAより

次のような内容の緊急行動の呼びかけが届きました
11月8日早朝、パレスチナ、ガザ北部のベイト・ハヌーンで、子ども8人と女性7人を含む18人の市民が殺され、少なくとも40人が負傷しました。住民によれば、この砲撃の1週間前からイスラエル軍の再占領により、5万人の街で多くの世帯が水を使うことのできない生活を強いられています。1000人以上が家を失い、土地は接収され、住民は電気も医療もない生活を強いられています。この週だけで80人のパレスチナ人が犠牲になり、350人以上が負傷しました。
パレスチナYWCAは、8日のベイト・ハヌーンでの虐殺に強く抗議し、世界中のYWCAと世界YWCAIに対して、国連安全保障理事会・イスラエル政府・国際社会や各国政府に抗議と国際法に反する破壊行為の即時停止の呼びかけを求めます。
また、11月29日の「パレスチナ人民連帯国際デー」には、パレスチナYWCA/東エルサレムYMCAジョイント・アドボカシー・イニシアティブ (JAI)と結束して、世界中のすべてのYWCAが、特別イベントを実施することを呼びかけます。

*このアクション・アラート全文は日本YWCAホームページに掲載されています。
「協力ありがとつこいよ
賛助費(以下敬称略)
村椿椅子 高橋美佐子 設楽順子
岡崎敬雄 小野小夜子 寺嶋公子
山本利子 森恵美子
平和教育資金
崔善愛 吉村千恵 石原清美
一般寄付
角田健 仙台YWCA 永山峰子
南信分館人部
女子学院中学校高等学校
オリブの木募金
藤村園子 飯田眞知子 畑裕子
財団法人アジア女性交流・研究
フォーラム 小泉拓永 小泉孝子
細井光 レイチェルSmith B.R
ジャフ島中部地震緊急支援募金
大阪YWCA
東京YWCA留学生の母親運動
東京YWCA武蔵野センター
弘前YWCA 仙台YWCA
レバノン・パレスチナ緊急支援募金
名古屋YWCA 甲府YWCA
村上美津子
世界YWCA総会派遣募金
ルクセンブルク大使館展覧会参加者
浦和YWCA



日韓青年交流プログラム2006

日 時：9月28日～10月1日
主 催：韓国YWCA・日本YWCA
テーマ：移住女性と人権

「移住女性と人権」をテーマに、韓国で開かれた今年の日韓青年交流プログラムには、韓国・日本から約30名が参加し、韓国や日本にさまざまな形で移住する女性たちの現状について報告しあい、NGOであるYWCAの活動を通して何ができるか、何をしなければならぬかを考えました。また、YWCAの目的でもある平和の実現に向けて、身近なところで何ができるかを日本と韓国の青年が共有。ソウル市内観光では、戦争の歴史について学ぶとともに、エネルギッシュなソウルを楽しみました。



クリスマスにイエスに出会った人々として、東方の占星術の学者たちがいます。ユダヤの東方の国、それはきつと今のイラクのあたりではなかったでしょうか。現在、キリスト教国であるアメリカが「悪魔の国」と名指して攻撃している人々こそ、実はよりイエスに近いところにいるのかも知れません。また少し前、イスラエル政府がベツレヘムへの出入りを制限して巡礼者を閉め出しているという話を聞きました。それで一番困るのは、観光客によって生活しているパレスチナ人のだいたいいます。遠い国からイエスの誕生した地を訪ねてくる外国人を閉め出し、イスラエルとパレスチナ人との関係を悪化させる暴挙もまた、神様の望みとかけ離れたものであることは明らかでしょう。クリスマス物語にはまた、イエスとの出会いのチャンスを与えられながら、その出会いを恐れ、疑い、実際に出会ってもいらない相手や、抹殺しようとするヘロデ王が登場します。私たちが時に、自分の視点だけから相手を判断したり、自分の立場にとつて都合の悪い人間との出会いを拒否したり、実際に出会いもしないで勝手に相手を決めつけたりといったことがないでしょうか。もしかしたら私たちはその中で、イエスご自身との出会いの機会を失っているのかも知れません。

刀形館美也子 (広島女学院高等学校聖書科教師・YWCA本部顧問)

クリスマス―出会いの物語

「彼らが王の言葉聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子いる場所の上で止まった。学者たちはその星を見て喜びにあふれた。」(マタイによる福音書2章9-10節)

日韓青年交流プログラムは初の参加でした。私の所属する福岡YWCAは独自に晋州や光州と姉妹結縁をしており、毎夏の中高大学生のボランティア相互訪問キャンプを行っています。在日文学の講習など、さまざまな勉強をする機会があったことが生かされました。3日目の朝のメディテーションは日本側主催でした。かつて私たちは侵略した側であった、という認識を胸に、日本が戦後61年戦争をしないできて、その根拠となった憲法9条を説明し、条文を日本語・韓国語で読み、日本語・韓国語で祈りました。9条の説明は私の担当であり、先の首相の靖国神社参拝については、韓国の皆を前にして、非常に情けなく、涙がこぼれました。今改憲論議があるが、日本のYWCAは抗議・反対しており、皆さんもぜひ日本が間違った道に進まないように祈ってほしい、と伝えました。

終わったあと、韓国側参加者のユ・ジュンが「わかったわ。祈る」と言ってくれました。また、後日にメールをくれたヒュンジュ (19歳) が、「あのときは、そんな憲法のこと初めて聞いたけれど、あなたの涙は覚えている。私もあなたと日本とアジアの平和と相互理解のために祈る」と言ってくれたのがとてもうれしかったです。福岡YWCA 江副真理

「日本のことが嫌いだったこともある。日本が過去に行ってきたことは許されることではないけれど、私たちは過去のことよりもこれからの関係性を考えていく方が大切だと思う」と、ある韓国の参加者が話してくれました。これからの国同士の関係をよりよくしていくために、私にできることはなんだろうかと日本に帰ってから考えています。日韓の歴史を勉強し直すことはもちろん、もう二度と日本が戦争をしないように日本国憲法の9条を守り続けるための行動が必要だと思っています。韓国の参加者の男子学生たちは、近いうちに徴兵に行くと話していました。私と同世代の男の子が軍隊に行くということが現実のこととして感じることができませんでしたが、どうか元気に帰ってきてほしいと心から祈っています。

これからの時代、ますます草の根の活動が重要になってくると思います。そのためにも、日韓YWCAの青年同士の交流を深め、そこで培った絆をそれぞれの国の関係性のために役立てていきたいと思っています。そして、相互の交流から、それぞれの国におけるYWCAの活動の発展につなげていきたいと感じました。一人ひとりの声は小さくても、連帯することによって、大きな「うねり」を創り、社会を変えていくことができるはずです。そうした草の根の活動を、移住女性の人権のために、世界の平和のために続けていきたいと思ひます。 京都YWCA 田中君枝



韓国において、国際結婚によって移住してきた女性に対する差別があることを学びました。それを引き起こしている原因は、韓国の家長長制度、男性選好思想(男児の出生を優先させる思想)による男女比率不均衡、日本でも問題となっている農村の未婚男性の増加、女性の晩婚化などにあるそうです。それらの要因が組み合わさり、日本にあるものとは違った「結婚情報会社」が存在することに驚きました。そこでは移住女性が物同様に販売され、低所得の男性が買う状況が作られています。こうした、移住女性の商品化や、「販売」のための宣伝が、移住女性に対する蔑視を引き起こしています。

移住女性の受け入れ大国としての立場は日韓共通ですが、文化・状況の違いにより移住女性が抱えている問題点が日本とはまた違った側面があることを知りました。国際結婚に関しては日本でも農村において増加傾向にあり、将来韓国と同じ問題を抱える可能性があります。今回訪ねた清州YWCAの、韓国人男性の意識改革教育、新しい形での国際結婚紹介所としての役割を担うという取り組みは、国際結婚問題を否定するのではなく、男性を教育し移住女性と共に共存しようという韓国の懐の大きさを感じました。

東京YWCA 木村真理子

守ろう子どもの権利 STOP!子どもポルノ サイバースペースから子どもたちを守るために

表題のシンポジウムが日本ユニセフ協会主催で10月26日開かれた。「エクパット/ストップ子ども買春の会」共同代表の宮本潤子さんから、インターネット上での子どもの被害が増え続けている世界の現状、法律が技術の進歩についていけないこと、子どもたちの自己被害化(自分で写真を撮りまわす)、子どもたち自身も加害者になりうることなどが報告された。警察庁生活安全局少年課は、日本における児童ポルノの状況、「児童ポルノ」の単純所持も今後処罰の対象としていく必要性などを指摘した。続いてIT業界団体・企業の取り組みについて、インターネット協会からの報告では、6月から9月まで292件(国内198)の通報のうち、38件は削除出来ないもの。携帯用サイトは発覚しにくく、モデル募集などで家出少女の住む場所提供など巧妙になっているとのこと。ヤフーの担当者によれば、フィルタリングサービスで子どもに有害なサイトを徹底ブロックしているが、それについて保護者の認知度は86%に対し導入は15%。マイクロソフト社からは子どもの利用状況調査の結果、90%の子どものが毎日利用しているのに対し、親は2~3日に1回との認識で、利用方法については、子どもからはメールやブログ、チャットなどコミュニケーションとの答えに対し、親は宿題やオンラインのゲームと考えていると報告された。

パネルディスカッションでは、子どもの人権の視点から、関係業界の統一しての対応の必要性が指摘された。子どもの日常にインターネットがあり、フィルタリングについて親も販売店も詳しく知らない現状で何をなすべきか考える必要などが話し合われた。

運動課題推進委員会 梅本弘子



教育基本法改悪法案を廃案に！ 国会を囲む人間の鎖

教育が戦争という国家戦略に利用された結果、多くのいのちが奪われた反省に立ち、戦後1947年に制定された教育基本法。その基本法の「改正」案が臨時国会で審議されており、与党は今国会での成立を自論んでいます。愛国心を盛り込んだ「改正」案を廃案にしよう。11月8日には、市民団体の呼びかけに応え、約3,000人が国会前に集合。YWCAからも、東京はじめ新潟や静岡の会員が駆けつけました。呼びかけ人の一人、暉峻淑子埼玉大名基督教教授は「国を愛する的心情を命令するのは許せない。この法案を成立させては行けない」と強調。社民党の福島瑞穂党首も参加し、「野党が協力し、廃案に追い込む」と訴えました。

教育基本法「改正」はなぜ「改悪」なのか

― ジェンダー平等の視点から

鶴田敦子 (聖心女子大学文学部教授)

「改正」も立場が違えば「改悪」になる。政府与党および文部科学省が進める教育基本法「改正」は、国家政策へ奉仕する国民づくりを進める立場であり、それが「改悪」だと主張する立場は、現行教育基本法の思想の中核である国家の支配から独立した教育の実現を求める立場である。ここでは、ジェンダー平等という視点から若干述べることにする。ジェンダー平等とは、男らしさ女らしさなど社会的・文化的に存在する性(ジェンダー)は、社会的・歴史的・文化的に形成された面が多いことから、それらにとらわれないで(ジェンダー・フリー)、またはジェンダー・エクイティ)性差別のない関係・システムの構築を目指すものである。性差別とは、性に基づく不必要な区別や制限・排除であり、女子差別撤廃条約は言う。つまり、ジェンダー平等の考え

は、基本的に、個人の生き方や自分の個性という「わたくし」を尊重する考え方であると言っています。 (1) 国家による「わたくし」への介入・統制、家庭教育の萎縮 家庭教育が大切であることは誰もが認めており、ここからは、国がするべきことは、親の働き方を家庭教育に携われるものに支え、家庭教育に関して学べる生涯学習の場の設定と参加できるようにするなどの、条件整備である。家庭教育の責任は親で、その中身までも法律で規定することは、国家による「わたくし」への介入であり、憲法13条の個人の尊重の理念に抵触すると思われる。

(2) ジェンダー平等の否定 「改正」を意図する人たちは賛成する人たちは、「第5条の示す男女共学の理念は十分普及したから削除している」、また「改正案の目的のところに男女平等の尊重も述べているではないか」と言う。現行基本法の第5条「男女共学」と第3条「教育の機会均等」の条項は、第2次世界大戦直後、不十分ながら男女ともに家庭科を学ぶという「男女同一の教育課程」を実現する根拠として機能した側面があった。しかし、1960年代、経済界および産業界教育振興の側から、男女特性教育論が興された時、第3条「教育の機会均等」は、女子は家庭科、男子は技術や体育を学ぶ、「教育の機会不均等」「男女別教育課程」へとあっさり変更されたのである。男女特性教育論とは、男女は生まれて以来違うところがあるので、違うものに違う教育を施してもそれは男女平等の理念に反しないというものであった。つまり、ジェンダーを固定的・

普遍的なものとしてとらえ、それに基づく教育は男女平等に反しないとは合理化したのである。昨今のジェンダー・フリーの考えを攻撃するパッシング論とそっくりである。こうして「教育の機会均等」はおおよそ約40年続けた。このことが日本人の、男らしさ・女らしさに対する固定的な考えや、男は別で働き女は内々働くという性別役割分業意識を形成するのにも、十分効果をもたらしていると言ってもいい。 教育基本法第5条は、ジェンダー平等の理念が明瞭に示された文言であるとはいえないものの、それは歴史的限界と言えよう、ジェンダー平等の核心を示すのである。この条項の削除は、2005年12月に示された男女共同参画基本計画(第2次)同様、ジェンダー不平等の教育への道が画策されていると言え、安倍首相をはじめ基本法「改正」勢力のほとんどが、ジェンダー・パッシングに回っている事案からも、「改正」は、ジェンダー不平等を導く「改悪」ととらえなければならぬ。

10月28日(土)、気持ちいい午後後の陽を浴びて三々五々子どもたちが集まってきました。3歳から9歳までの子どもたち21人が「何をやるんだろ」と興味津々に瞳を輝かせています。まず全員がそろったところで一つの大きな輪になって座り、わらべ歌を歌います。みんなが落ち着いて気持ちが一つになったところで自己紹介。自分の好きな

友だちの名前・自分の好きな場所・自分の好きな食べ物のこと。子どもたちの心がキラキラと輝いていくのがわかります。いよいよ横道紙4枚分の大きな紙に10人ずつが向かって絵を描き始めます。最初に描くのは自分です。大きな自分・かわいい自分、子どもたちの描く自分さまざまですが、どれもしっかりと地に足がついています。次に自分の行きたいところに行く道を描きます。真っ直ぐな太い道を描き、曲がりくねった細い道を描き、道と道があちこちで交差したり、ぶつかったり、他の子のエリアに食い込んだりします。その次に、自分が一番行きたい好きな場所を描きます。旅行で訪れた心に残る場所を描く子、おじいちゃんおばあちゃんの家を描く子、自分の家を描く子。そして最後にそれを全部包みこむ大きな空をみんなで描きます。もちろん大きな大きな太陽も。

ルクセンブルグ大使館での YWCA 会員向け特別公開 エヒテルナッハ 彩飾写本展示会



ルクセンブルグ東部に位置するエヒテルナッハ修道院美術館所蔵の「黄金福音書」の写本が東京のルクセンブルグ大使館で公開され、期間中の10月20日、ミッシェル・フランシェート大使＝写真中央＝のご好意によりYWCA会員のための鑑賞の機会が提供されました。

大使館は日本YWCA事務所の斜め向かいにあり、昨秋には、日本YWCA100周年記念事業チャリティ・イベントにご協力いただきました。今回は、約40名が美しい写本を鑑賞、その後でティータイムのおもてなしをいただきました。当日の参加者からの寄付金は、来年ケニアで開催される世界YWCA派遣基金とさせていただきます。

東京YWCAピースウィーク2006 ヒロシマ・ナガサキから 今に続く核汚染

10月14日～28日

東京YWCAでは、第4回となる平和集会を「ピースウィーク2006―ヒロシマ・ナガサキから今に続く核汚染―」のテーマで10月14日より28日まで東京YWCA会館と国領センターで開催した。 これまで東京大空襲やヒロシマ・ナガサキで被害された会員のお話を聞いてきたが、今回は核をめぐる今の世界や日本国内に目を向け、展示・講演会・ワークショップを展開した。

今年にはYWCA専門学校生たちと一緒にこの催しを進めることになり、初日14日の文化祭「Y祭」の講演会とワークショップは「絆・みんなであらぐ世界の愛」のテーマで開かれ、学生・会員共々に参加できた。 会館ホールでの展示は、丸木美術館の原爆の図「少年少女」を中心に、森住卓写真集「核に触れた地球」、専門学校と関り深い2人のアーティストの絵画と写真が架けられた。

講演会では映画監督の鎌田ひとみさんが、六ヶ所村の現状を話された。この核廃棄処理工場を90%の村民が心の中では反対しつつ、生活のために働いている現実や、この背後には湯水のごとく電力を使っている私たちの存在があること、そしてブルサンマル由政府・関連企業のスキャンダルにも触れた。今後はもう稼働寸前! 私たちのすべきことは何? 東京YWCA 芹澤裕子

